

経営倫理（2017年度）シラバス 担当：國部克彦

<目的>

本講義は、神戸大学経営学研究科の教員の最先端の研究成果に基づいて、MBA教育用にアレンジした科目群のひとつである。したがって、通常の経営倫理の知識を提供することを目的とするのではなく、それを前提としたうえで、最も根本的なレベルでの経営倫理の考え方を学ぶことを目的とする。本講義では、企業の倫理(business ethics)ではなく、経営に關与する人の倫理(management ethics)という観点から、経済のロジックを超えた地点にある倫理を企業活動の中に反映させるためには何が必要なのかを、会計/アカウンタビリティを中心に議論する。

<テキスト>

①國部克彦『アカウンタビリティから経営倫理へー経済を超えるために』有斐閣, 2017年

<参考書>

②高巖『ビジネスエシックス[企業倫理]』日本経済新聞出版社, 2013年

③國部克彦・神戸CSR研究会『CSRの基礎』中央経済社, 2017年

<評価方法> (合計：60点以上を合格とする)

①事前課題レポート : 10点(ボーナス点)

②講義後提出レポート: 40点(1回10点)

③事後課題レポート : 60点

<事前課題>

・神戸製鋼所の製品検査不祥事問題について、①なぜこのような問題が起こったのか、その一番の原因は何か、②再発防止のためにはどのような対策が必要か、の2点について、1000字程度でまとめよ。レポートに①、②と記号を付して、意見を明確に書くこと。

<講義後提出レポート>

・4回の講義ごとに、課題を提示するので、1週間後の講義時に提出すること

<事後課題>

あなたが勤める企業において「実践としての経営倫理」として認識できる事象(1つでも複数でも可)を取り上げ、その内容を500-1000字程度で要約したうえで、その課題と今後の可能性について、1000-2000字程度で述べなさい(ただし、全体で2000字以上)。※もしも会社内に適当な事例がない場合は、業界等に範囲を広げてよい。

提出締切日：2018年3月3日(土)経営学研究科教務係まで

<講義の進め方>

- テキスト，参考書を事前学習したうえで，講義に臨むこと。
- 原則として，講義+ディスカッション（30分程度）で進める。
- 講義時にレスポンスカードを配布するので，講義に対する意見を戻すこと。
- パワーポイントは使用せず，レジユメを配布する。
- 講義中はPCの利用は控え，授業に集中するように。

<各講義の概要>

第1講 公共性（テキスト①1章，参考書②1章）（1月12日）

ビジネスにおける倫理問題はすべて経済と人間の関係から生じていることを，アーレントの公共性理論を導きの糸として学ぶ。経済がどのようにして社会を支配しているのかについて，経済の表現形式である会計の観点を意識して議論し，経済に対して人間を回復させる根拠としての経営倫理の役割を議論する。

第2講 責任（テキスト①2章）（1月19日）

ビジネスの世界における責任あるいは正義とはいかにあるべきか。なぜ不祥事はいつまでたってもなくなるのか。これは個人の問題ではなく制度の問題であることを理解して，有限の責任／アカウンタビリティを，組織のレベルでも，企業のレベルでも，無限の責任／アカウンタビリティへと転換することが可能かどうかを議論する。

第3講 評価（テキスト①3，4章）（2月2日）

無限の責任／アカウンタビリティを実行するためには，有限の目標を複数化する必要がある。そのための複数評価原理の会計として，MFCA，GRIスタンダード，IIRCフレームワークなどを取り上げてその可能性を議論する。さらに，フィードバックプロセスの必要性についても検討する。

第4講 実践（テキスト①5章，参考書③）（2月9日）

これまでの3つの講義で議論してきた理論と手法・制度を実践することで，倫理が構築されることを議論する。具体的な実践として，SDGs やステークホルダーエンゲージメントなどを取り上げて，主にCSR実践を通じて経営倫理が構築されるプロセスを考える。CSRのこれまでの発展過程を振り返り，その可能性についても検討する。

<講義担当者連絡先>

kokubu@kobe-u.ac.jp